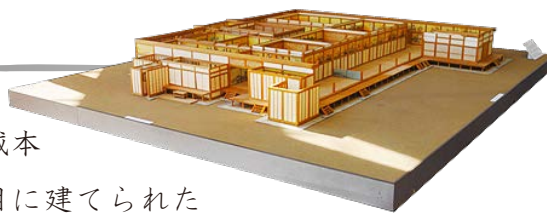


江戸城模型

江戸城本丸御殿大広間 弘化度(1845～1859)

江戸幕府の政庁であり将軍の住宅であった江戸城本丸御殿は7回建て直されているが、本模型は6回目に建てられた弘化2年竣工の本丸御殿大広間である。大広間は本丸御殿の玄関の西側にある東西50mを超える規模の江戸城内最大の御殿である。「将軍宣下」や「年始」、外国人の「謁見」など、幕府の公式行事を行う場として、「表」の中で最も格式の高い場所であった。

上段、中段、下段、二の間、三の間、四の間などから成り、縁側を含めると500畳近く(俗に「千畳敷」ともいう)の広さを持つ書院造の大建築で、上段、中段、下段には床の高さにそれぞれ7寸(約21cm)ずつの段差があった。

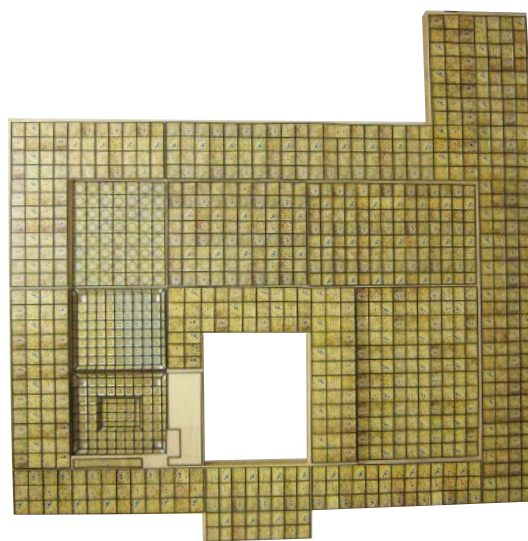


(模型寸法：幅 2,965 mm、奥行 2,450 mm)

大広間格天井

「格天井」とは、社寺や御殿などで最も格式の高い部屋に使われる細い材を直角に交差させて格子に組んだ天井のこと。

大広間下段の格天井は、黒漆塗の格子状の枠に極彩色の絵が入った造り。中段は下段よりも一段高い天井で、周囲にドーム状のカーブをつけた「折上格天井」、上段は一度折り上げ、さらに天井中央部でもう一度折り上げた「二重折上格天井」で、大広間の豪華さを演出していた。



模型製作監修：平井聖 (本学名誉教授)

本模型は、昭和63年に東京国立博物館で行われた「江戸城障壁画の下絵」展のために、当時の本学理工学部建築第一講座の学生によって製作された。